

第142回 国際母子カンファレンス

「HIV 母子感染の現状と今後の課題」

講師：国立国際医療研究センター小児科 田中 瑞恵 先生

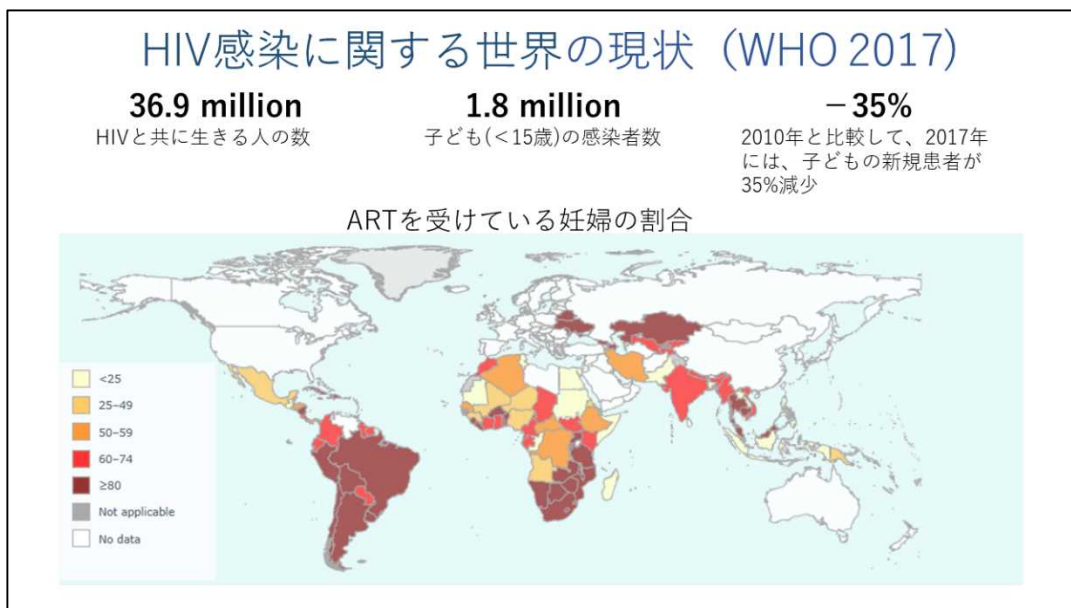
日時：2019年2月13日（水） 18:00 ~ 19:30

場所：国立国際医療研究センター
国際医療協力研修センター棟 5F 大会議室



HIV 感染症は cART（多剤併用抗 HIV 療法）の有用性が提唱されてから約 20 年、治療薬は飛躍的に進歩し、死の病ではなくなりましたが未だに治癒が望めない疾患です。UNAIDS（国連合同エイズ計画）は、2030 年までに HIV/エイズの流行を終息させる目標の達成のため、2020 年までに「90-90-90 ターゲット」*を実現させる計画を掲げています。HIV/エイズを拡大させないためには世代を越えさせないつまり、母子感染を予防することは重要と考えます。日本で行われている母子感染予防策を完遂出来た場合の感染報告はなく、感染予防策として有用です。その一方で、日本でも感染例の報告は続いており、新たな対策が迫られています。母子感染予防策の現状と我が国の感染動向を通じて、今後の HIV 母子感染予防策についてみなさんと考えたいと思います。

*「90-90-90 ターゲット」：HIV 感染者の 90%が自らの感染を知り、うち 90%は治療を開始し、さらに治療を受けている人の 90%が体内ウイルス量を低く抑えられる状態を目指す



主催：国立国際医療研究センター 国際母子タスクフォース（協賛：医薬会）